

# 会 議 録（7月）

令和3年7月16日（金）  
木地屋別館（旧森林交流館）

- 1 開 会（17時00分）
- 2 教育長あいさつ
- 3 会議録署名委員の指名について（松崎 要二 委員）
- 4 議 題
  - (1) 報 告
    - ① コロナウイルス感染症対策（臨時交付金）について ※非公開とする
    - ② 第73回成人式（8/16）について
    - ③ 風流フェスタinごかせ（Gドーム）について
  - (2) 協 議
    - ① 使用教科用図書選定等について ※非公開とする
    - ② コロナワクチン接種について ※非公開とする
- 5 その他
  - (1) 高鍋農業高校体験学習について（7/28）  
参加人数：18名（中2：14名、中1：4名）
  - (2) 国体中央競技団視察について（7/30）
  - (3) 第18回ゆうやけトライアルin五ヶ瀬について（8/21）  
県外：尚綱高校（熊本市）21名、県内：大淀中、新光陸上（日南）
  - (4) 五ヶ瀬デザインプロジェクト（GDP）について
- 6 連絡事項等
  - (1) 教育委員会の行事予定（7～9月上旬）について
  - (2) 次回の教育委員会の日程について  
9月22日（水）午後5時30分～
- 7 閉 会（18時07分）

会議録 17時00分開会

教育長 あいさつ

議事録署名委員 松崎 要二 委員

Q…Question (質問)    A…Answer (回答)  
O…Opinion (意見)    E…Explanation (説明)

【4 議題】

(1) 報告

① コロナウイルス感染症対策（臨時交付金）について    ※非公開とする  
資料に基づき、教育次長が説明

② 第73回成人式（8/16）について  
資料に基づき、教育次長が説明

E 1 6月の定例会では、参加者の地域を限定しないとしていたが、東京都が緊急事態宣言を8月22日まで延長されたことに伴い、宣言区域及びまん防対象区域に生活圏を有する者及び県外者の参加は見送ることとし、県内においてはオレンジ圏域以上に指定された地域からの参加も見送ることとしている。また、西臼杵圏域がオレンジ圏域に指定された場合は町内在住者に限るとし、赤圏域の場合は完全オンラインでの開催という対応を考えており、中止ということとはしないこととしている。

Q 1 状況に応じて内容が変わるということか。

A 1 そのようなことになる。なるべく混乱が生じないように対応していきたい。

③ 風流フェスタinごかせ（Gドーム）について  
資料に基づき、教育次長が説明

E 2 今の段階では、実施の方向で計画を進めている。主会場をGドームとし、町民の皆さんに元気になってほしいとの思いで、飲食コーナーも設置したいと考えている。県外の出演団体で、辞退されている団体が3団体あるが、出演いただく団体はなるべく町内の宿泊施設に宿泊できるように手配をしている。

Q 2 実施の最終判断はどこで行うのか。

A 2 最終的には町長判断になる。

Q 3 町外からの観客の見込みは把握しているのか。

A 3 マスコミ等でのPRを行っているが、見込み数は把握できていない。

Q 4 観客は自由参加なのか。

A 4 観客は自由参加にしている。ただ、状況によっては県内限定などの対応になる。

Q 5 観客の人数制限はしているのか。

A 5 制限はしていないが、ドーム内の人数は、当初500名から300名に縮小はしている。

(2) 協議

- ① 使用教科用図書選定等について ※非公開とする  
資料に基づき、指導主事が説明
  
- ② コロナワクチン接種について ※非公開とする  
資料に基づき、教育次長が説明

【5 その他】

- (1) 高鍋農業高校体験学習について  
資料に基づき、教育次長が説明。  
(質疑) なし
  
- (2) 国体中央競技団視察について  
資料に基づき、教育次長が説明。  
(質疑) なし
  
- (3) 第18回ゆうやけトライアルIN五ヶ瀬について  
資料に基づき、教育次長が説明。  
E6 熊本県や県南からの申込もあり、現段階では地域は限定せずに開催する  
予定にしている。  
(質疑) なし
  
- (4) 五ヶ瀬デザインプロジェクト(GDP)について  
資料に基づき、教育長が説明。  
E7 来年度からのGDPの見直しを考えている。大きな違いは、中学3年の  
1年間ではなく中学校3年間を通じて行う活動として位置付ける。活動の  
中身については、町の施策等にあわせて生徒が3年間を通じて考えていく  
ことにするという。子どもの学びについて、役場職員に限らない町の  
若い人に関わっていただくこと。こういったところを踏まえて、これから  
先の子どもたちに必要な力は探究する力というものになる。自分で何かし  
ら課題を設定できる能力、設定した課題についてしっかりと情報を収集す  
る能力、集めた情報を整理・分析する能力、そして、それらを人に伝える  
能力、これらを3年間を通じて4つのサイクルとして、しっかりと回して  
いくというカリキュラムを作っていこうという話がスタートしつつあると  
ころである。今後は、こういったところに力を入れていきたいと考えてい  
る。次に、学びのコンパスについてだが、これは、OECDの教育部門が  
今後取り組もうとしているものを元に五ヶ瀬のバージョンにしたものであ  
る。これは、子どもも先生方も、このコンパスを意識しながら子どもたち  
を育成していこうというものである。その中で、「五ヶ瀬っ子エージェン  
シー」があるが、これは、自分と五ヶ瀬の将来について、主体的に考え、  
行動し、責任をもって変革を実現していくという意味や姿勢という表現に  
なっており、教育ビジョンの「五ヶ瀬で生まれ、育ち、生き、五ヶ瀬を創  
造する人づくり」と重なっており、こういった部分をしっかりと取り入れ  
ていくことになる。次に、「GV共同エージェンシー」とは、一人の学び  
をお互いに支えていくということで、これは、友達同士、先生だけではな

く、家族や地域住民、ここでは五ヶ瀬の住民と表現しているが、みんなが仲間となって子どもの学びを支えていこうというものである。次に、コンパスの絵があるが、横の軸に態度と価値という表現にしている。これは、今までの教育ではあまりなかった部分で、態度とは、様々な状況に耐えられる、幅広くものを受け入れるというもので、価値というのは、あらゆる価値を自分に取り入れるというような人間的幅を指している。また、「五ヶ瀬のより良い未来に向け変革を起こす力」として、新たな価値を創造する力、対立やジレンマに対応する力、責任ある行動をとる力、この3つをまとめて変革を起こすというものである。そして、行動・振り返り・見通しがサイクルのように回っているが、これが探究そのものである。こういう能力が今後問われてくるようになる。最後に、町、教育委員会から見る新GDPとして、町としては、持続可能な地域社会の構築に向け、若い年代とともに行うまちづくりとメンターとして町の若手人材の資質向上に取り組み、教育委員会としては、ビジョン10年の反省を活かしながら、ふるさとが好きだけで終わらない、次をどうするか、次世代人材の育成、町の課題解決に向けた生徒の主体的な進路選択を支援し、五ヶ瀬ならではのキャリア教育を推進していきたいと考える。

- 1 昨年の発表を見に行ったが、特産品について発表した生徒がいたが、自分で思う特産品は何かという質問をしたら、自分の家で作られている特産品の名前は出なかったので、現実が見えていないと感じた。また、聞きにきていた別の人が、予算はどうするのかという質問をされていたが、そこまでの考えはなかったように感じた。そのあたりの兼ね合いが必要と感じた。
- E8 予算的な見方というのも教えられる部分は教えていくという仕組みがあると、生徒も現実的に物事を考えることが勉強になるため、そのような視点を大事にしていきたいと思う。
- 2 体験学習において、農業振興等の行政の支援の説明もあるので、ある程度町が応援しますよという助言があってもいいと思う。先ほどの説明で、態度と価値というのがあったが、生徒たちには新たな発想を出してもらえるといいと思う。
- Q6 職場体験で受け入れた側として、生徒たちの様子はどのように感じたか。
- A6 今の子どもたちは、自分自身の目標とか将来何になればいいのかなど悩みを持っているように感じる。目標を持つことに自信がないのではないかな。地域も何か自信を持たせるようなことができるといいと思う。
- E9 これからの時代はどのようなようになるか分からない中、子どもたちにどのような力をここ五ヶ瀬でつけさせることができるか考えていかなければならない。
- 3 介護人材が不足していると聞くので、介護医療に目を向けるのも必要と感じている。
- E10 以前は、例えば、介護分野を目指す場合、その職に就いている人そのものをイメージしていたが、最近では、コンピューター工学を学んで、よりよい介護器具を作りたいと考えて、大学で生き生きと学んでいる学生がいると聞く。このように、目標に対して、色々なアプローチの仕方があり、直接はできなくても貢献できる方法もある。これを生徒に伝えていかなければ

- ばならない。
- 4 少子高齢化で、高齢者は多く子どもは少ないというこの地域で、どうやって生活していけばよいか、子どものうちから一緒に考えてもらえるとうい。
- E11 今は様々なデータや情報が手に入るので、子どもたちなりにどう読み解いて、自分たちなりの答えを導き出していくかということが大事である。ただ、教えるものではない。総合的な学習の時間では、先ほどの4つの流れの仕組みを子どもたちに学ばせることが一番の目標である。ただ、目の前の現実を元に学ばせることができるようなカリキュラムを作っていきたいと思う。

**【6 連絡事項等】**

- (1) 教育委員会の行事予定(7~9月上旬)について  
資料に基づき、教育次長が説明。  
(質疑)なし
- (2) 次回の委員会の日程について  
令和3年 9月22日(水)午後5時30分から  
(質疑)なし

**【7 閉会】 閉会時間 18時07分**

教 育 長

会議録署名委員

会議録調整者